北海道旭川東高等学校　　# 平成３０年度学校経営シラバス

校訓	学校教育目標	育成する生徒像	学校標語
生をよろこべ 矩にしたがえ 全力をつくせ	⑴ 広く語らい信頼を深め、自ら啓発し、共に鍛えよう。 ⑵ 本校の歴史・伝統を踏まえ、理想的な学園の建設に努めよう。 ⑶有為な社会人、国際人となるための教養を高めよう。	⑴ 志高く学問に対する興味・関心を深め、知的好奇心をもつ喜びが味わえる生徒 ⑵ 学習、行事、部活動等に積極的に参加し、自らの意思で学校生活を創造する生徒 ⑶ 心身ともに健全で、思いやりの心と感謝の気持ちで挨拶と笑顔のある生徒	『シマレ　ガンバレ』 （昭和8年制定） 『挙校大和』 （昭和32年制定）

経営方針　１　教職員一人一人の力を組織として大きな力とし、協働意欲に満ちた活力ある学校づくりに努める。
２　教育活動の改善に結びつく質の高い目標と改善方策の設定を図り、全教職員が一体となって課題解決に努める。
３　保護者・地域からの信頼と支援に応える積極的な情報発信と連携強化に努める。

教育活動

領域	中期目標	今年度目標	目標達成のための具体的方策・評価の観点	関連分掌等
学習指導	主体的に学び、考えを主張し、知的好奇心あふれる生徒の育成	新教育課程への対応	本校で学ぶ生徒に育成を目指す資質・能力をさらに明確にするとともに、教科間のつながりや学習・指導の改善を踏まえた新教育課程の編成準備が行われたか。	教務部、教科
		生徒の学習の量的確保と質的向上	学習状況調査の分析により、生徒の学習行動の把握を行うとともに、学習の量的確保を促し、質的改善に向けた取組が進められたか。	教務部、生徒指導部、教科、学年
		生徒の授業満足度と評価の改善	生徒の授業アンケートにおいて、各質問項目と授業満足度の相関関係の分析等により、生徒の学ぶ意欲の向上と主体的な学びに資することができたか。	教務部、教科
		生涯にわたる知的態度の涵養	生涯にわたる生きる力・学ぶ力を深めるよう、様々な知的刺激が得られる機会や外部の利用を促進する取組が行われたか。	教務部、進路指導部、図書視聴覚部
生徒指導	共通理解と生徒理解の上に立った自覚、責任、自立ある生徒の育成	生徒会行事の充実	本校の生徒に身に付けさせたい資質・能力や行事の目的を明確化し、その達成度合いを検証するとともに、課題の解決を図ることができたか。	生徒指導部、教務部
		ルールの順守、マナーやモラルの維持・向上	規範意識の涵養、あいさつ、私物の管理、スマホの利用などに関わるルールやマナーの指導が、職員の共通理解のもとで適切に行われたか。	生徒指導部、学年
		いじめ防止対策の充実	「学校の基本方針」及びいじめ防止に関する取組みの検証、評価、見直しを行い、すべての生徒が安心して学習や部活動等に取り組める体制を確保できたか。	生徒指導部、学年
		部局同好会規定等の検討	本校の現状と近未来を踏まえた部・局・同好会規定、顧問の配置、部活動の在り方等について十分な検討が行われたか。	生徒指導部、部顧問
進路指導	進路意識の高揚と実力養成による生徒の進路実現	組織的な進路業務の実施	進路行事等の企画書を整理するなどして、実施計画による適切な運営がなされるとともに、評価や効果の検証に基づく改善がなされたか。	進路指導部、学年
		大学入試改革への対応	試験内容や調査書・推薦書等の見直しについて積極的な情報収集と教職員間の共有を継続するとともに、生徒の活動履歴の蓄積に着手できたか。	進路指導部、学年
		進路講演会の充実	保護者向け進路講演会の内容や提供資料について、参加者の満足度調査を行うなどして改善が図られたか。	進路指導部
		模擬試験等の活用の充実	外部模試等の目的や意義を再定義し、各学年や教科との共通理解と分析の充実を図ることにより、生徒への指導の充実につなげることができたか。	進路指導部、学年、教科
健康・安全指導	自他の生命を尊重できる生徒の育成	個別支援体制の充実	特別な教育的支援が必要な生徒について、早期に把握できる体制や個別の指導計画の作成、教職員間の情報共有など、組織的な支援が行われたか。	保健部、学年
		自己管理能力の向上	生徒個々が健康・体調の管理に努めるとともに、体力や意欲の維持向上が図れるよう、組織的な指導が行われたか。	保健部、生徒指導部、学年
		危機管理体制の向上	非常災害への対応や不審者対策（休業日を含む）を含む危機管理体制の点検・見直しを進め、教職員及び生徒の災害時における対応能力の向上が図られたか。	総務部、生徒指導部、事務部

学 校 経 営

領域	中期目標	今年度目標	目標達成のための具体的方策・評価の観点	関連分掌等
地域に信頼される学校作り	保護者や地域からの信頼度の向上	学校評価の充実	各分掌等における課題の重点化と確かな根拠に基づく達成度の検証が行われ、学校評価に基づいた方策によって学校運営の改善が図られたか。	総務部、各分掌、学年
		地域や保護者に対する情報発信の強化	質の高い授業、生徒による主体的な活動、伝統ある学校行事や部活動の活躍など、本校の特色ある教育活動を積極的に発信し、高い志を持つ入学者の確保に努めたか。	教務部、総務部
		保護者からの信頼度の向上	学年懇談会、保護者面談、進路講演会、公開授業、学校だより、アンケート等による保護者への情報発信を充実させ、信頼度、理解度を高めることができたか。	総務部、教務部、進路指導部、学年
組織運営	課題共有と解決のための協働体制の確立	会議等の効率化	目的が明確な効率の良い会議が行われたか。また、資料の事前配布、資料の読上げを避けるなどして時間短縮が図られたか。	総務部
		校内組織の見直し	学級減を見据えた分掌の再編を含む組織の見直し、校内体制の改善に向けた検討が行われたか。	総務部
		働き方改革への取組	明文化されていない慣例業務のスリム化や業務の平準化、各自のスケジュール管理や計画的な起案等を通して、業務の効率化、時間外勤務の縮減が図られたか。	総務部、各分掌、学年
教職員の資質向上	本校教職員としての自覚と責任の共有	授業研究・校内研修の充実	教職員の授業改善を促し、授業改善や教師の指導力向上、生徒の授業満足度の向上に資するものとできたか。	教務部、各教科
		校外研修の成果の共有	視察や研修会等の情報、資料、成果が、各教科や分掌等へ適切に共有されたか。	各教科、分掌
		不祥事を防止する職場環境の保持	モラル違反に対する緊張感や危機感の保持、適度な同僚性やコミュニケーションの確保など、不祥事が起こりにくい職場環境が維持されていたか。	総務部